

「ネットワーク基本パック」Windows Server2008対応版 概要(Ver.3.50)

Windows Server® 2008に対応した「ネットワーク基本パック Ver.3.5」の内容をご案内します。

1.対象バージョン

バージョンアップ対象バージョン・・・Ver.2.0以降

2.システムの変更点

(1)動作環境に関する対応

Windows Server® 2008 対応

サーバの動作環境として、Windows Server® 2008に対応しました。

(2)起動に関する対応

データベースサーバを起動するサービスの自動登録

従来はサービスマネージャ機能を使ってデータベースサーバを起動するサービスを登録する必要がありましたが、ネットワーク基本パックサーバをセットアップ時に、このサービスを自動的にWindowsに登録するように対応しました。

(サービス名:「EPDBStart」表示名:EPSONData Server Start)

これに伴い、不要となったサービスマネージャ機能はメニュー(タスクバーの<スタート> [すべてのプログラム](または[プログラム]) [エプソン応援シリーズ] [サービスマネージャ])から削除しました。

「BN_RDB5」アイコンの非表示に対応

データベースサーバを起動すると、サーバのタスクバーに表示されていたデータベースサーバのアイコン「BN_RDB5」を表示しないように対応しました(サービスからデータベースサーバが起動された場合のみ)。

データベースバックアップ/リストアの際のサービス自動停止・開始に対応

ネットワーク基本パックで「データベースバックアップ」や「データベースリストア」を行う際、従来手動で行う必要があったデータベースサーバの停止や起動を自動的に行うように対応しました(サービスからデータベースサーバが起動されている場合のみ)。

(3)共通会社基本情報の管理機能に関する対応

メニューに「共通会社」を追加し、共通会社基本情報の管理機能を追加しました。

共通会社のメニューは、データ利用管理者でも使用できます。

コードチェッカー一覧表の新規追加([共通会社] [コードチェッカー一覧表])

共通会社基本情報のコードや会社名と、アプリケーション別会社データのコードや会社名を比較し、一致していないものを探するための一覧表です。

共通会社基本情報一覧表の新規追加([共通会社] [共通会社基本情報一覧表])

共通会社基本情報の一覧表を作成します。

共通会社コード一覧表の新規追加([共通会社] [共通会社コード一覧表])

共通会社基本情報のうちコードと会社名の一覧表を作成します。

新規に会社コードを追加するために未使用のコードを探す場合等に使用します。

共通会社基本情報変更の新規追加([共通会社] [共通会社基本情報変更])

共通会社基本情報を直接変更したり、共通会社基本情報とアプリケーションごとの会社情報との関連づけを変更したりすることができます。また、あらかじめ共通会社基本情報を作成しておいて、それをもとに各アプリケーションの会社データを作成することもできます。



例：共通会社基本情報変更機能を使用する目的

- ・会社コードが重複してしまった結果、本来とは別の会社の共通会社基本情報に関連づけられてしまった会社データを切り離したい。
また、正しい関連づけに直したい
- ・もとは同一の会社データだが、別の会社データとして管理したい
- ・各アプリケーションで会社を作成する前に、もとなる共通会社基本情報を作成しておいて、これをもとに各アプリケーションの会社データを作成したい
- ・共通会社基本情報を直接変更して各アプリケーションの会社データに反映させたい
- ・共通会社基本情報に関連づけられている会社データを確認したい
- ・共通会社基本情報の内容を確認したい

(4)ライセンス登録に関する対応内容**登録済みライセンスの出力 / 取り込みに対応**

ライセンス設定画面の<ライセンス数変更>で、登録済みライセンスのファイルへの出力や、出力したファイルからのライセンスの取り込みを行えるように対応しました。

<参照>をクリックすると、<読み込み>または<書き出し>のフォルダを変更できます。

<書き出し>をクリックすると、登録済みのライセンス情報を指定先に書き出します。

商品に同梱されているライセンスフロッピーは<読み込み>で取り込みます。

<書き出し>で書き出したライセンス情報も<読み込み>で取り込むことができます。

**(5)強制ログイン機能に関する対応内容****クライアントからの強制ログイン機能に対応**

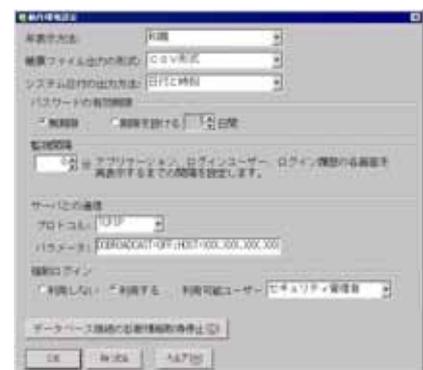
ネットワークの障害等によりログイン中のアプリケーションを強制終了など行った場合、アプリケーションを使用していないのにユーザーがログインしている状態が残ってしまい、次回ログインができません。

このような場合、従来はサーバ側でネットワーク基本パックを起動し、ログインユーザー画面の<強制ログアウト>で、残ってしまったログインユーザー情報を削除する必要がありましたが、クライアント側で強制ログイン（自動的に強制ログアウトとログインを実行）が行えるよう対応しました。

[設定] [動作環境設定]の「強制ログイン」で

強制ログイン機能の利用有無を設定します。

利用する場合、利用可能ユーザー（セキュリティ管理者 / 全ユーザー）を指定します。



「強制ログイン：利用する」の場合、アプリケーションへのログイン時にそのユーザーのログインユーザー情報が残っていたときに、クライアントからの強制ログアウトが可能になります。

(6)データ利用者設定に関する対応内容

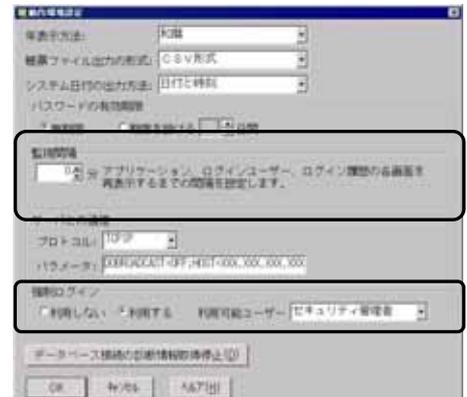
データ利用者設定一覧表の新規追加（〔設定〕〔データ利用者設定一覧表〕）
ユーザーごとに利用できるデータの一覧表を作成します。

(7)動作環境設定に関する対応内容**監視間隔の設定の統合**

従来は「アプリケーション」「ログインユーザー」「ログイン履歴」の3つに分かれていました監視間隔の設定をひとつに統合しました。

強制ログインの設定追加

設定項目に「強制ログイン」を追加しました。
詳細については、前述の「強制ログイン機能に関する対応内容」をご確認ください。

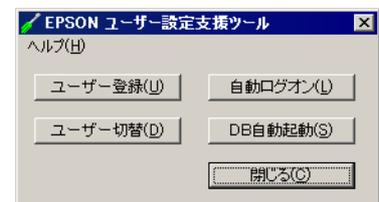
**(8)アプリケーションのDBセットアップに関する対応内容****改版用セットアップディスクによる新規セットアップに対応**

サーバを変更するときなどに、ネットワーク基本パックや各ネットワーク版アプリケーションのサーバプログラム(DBプログラム)を改版用のセットアップディスクを使ってセットアップする場合、従来は事前に新規用のセットアップディスクを使って旧バージョンをセットアップ後、ライセンスを登録しておかないとセットアップできませんでしたが、その様な作業を行わずに改版用のセットアップディスクでサーバプログラム(DBプログラム)をセットアップできるように対応しました。

ただし、改版用のセットアップディスクのみでセットアップした場合はライセンスの登録は行えないため、登録済みのライセンス情報を予め書き出し、セットアップ後に取り込むなどが必要になります。(登録済みライセンスの書き出し/読み込み機能は Ver.3.5 から追加した機能です)

(9)ユーザー設定支援ツールに関する対応内容**ユーザー設定支援ツールの追加**

ネットワーク基本パックに登録したユーザーを同じユーザー名とパスワードでそのコンピュータのWindowsに登録したり、Windowsへのログオンを自動的に行う設定をする場合等に使用できる「ユーザー設定支援ツール」を追加しました。
ユーザー設定支援ツールは、サーバだけでなくクライアントからも起動することができます。

**<ユーザー登録>**

ネットワーク基本パックに登録したユーザー名とパスワードをWindowsのユーザーとして登録する場合に使用します

<ユーザー切替>

<ユーザー登録>によりWindowsに登録したユーザーをWindows上で無効にしたり、再び有効に戻したりする場合に使用します。

<自動ログオン>

Windowsへのログオンを自動的に行う設定をしたり、その設定を解除したりする場合に使用します。

<DB自動起動>（このボタンはクライアントでは無効）

データベースサーバ起動のサービスをWindowsから削除したり、登録し直したりする場合に使用します。

3.動作環境

ネットワーク基本パック Ver3.5の動作環境は以下のとおりです。

サーバ

動作環境	詳 細
基本ソフト	Windows® Server 2008 ^{*1} Windows® Server 2003 ^{*1} Windows® 2000
CPU	Windows® Server 2008 : 1 GHz 以上 (2 GHz 以上を推奨) Windows® Server 2003 : 550 MHz 以上 (1 GHz 以上を推奨) Windows® 2000 : 400 MHz 以上 (400 MHz 以上を推奨)
メモリ	Windows® Server 2008 : 512 MB 以上 (2 GB 以上を推奨) Windows® Server 2003 : 256 MB 以上 (512 MB 以上を推奨) Windows® 2000 : 128 MB 以上 (256 MB 以上を推奨)
ディスプレイ (解像度)	1024×768 (小さいフォント) 以上を推奨 800×600 (小さいフォント) も使用可能 Windows® Server 2008 は規定のスケール (96DPI) 使用してください Windows® Server 2003 は通常のサイズ (96DPI) 使用してください
フロッピードライブ	3.5 型 (3.5 インチ) フロッピードライブ ライセンス登録を行うときに、フロッピーを使用します。
CD-ROM ドライブ	セットアップ時に必要
ハードディスクの 空き容量	最低 40MB
プリンタ	基本ソフトで使用可能なページプリンタ

クライアント

動作環境	詳 細
基本ソフト	Windows® Vista ^{*1} Windows® XP ^{*1} Windows® 2000
CPU	Windows® Vista : 800MHz 以上 (1GHz 以上を推奨) Windows® XP : 400MHz 以上 (500MHz 以上を推奨) Windows® 2000 : 400MHz 以上 (500MHz 以上を推奨)
メモリ	Windows® Vista : 512MB 以上 (1GB 以上を推奨) Windows® XP : 128MB 以上 (256MB 以上を推奨) Windows® 2000 : 128MB 以上 (256MB 以上を推奨)
ディスプレイ (解像度)	1024×768 以上 (小さいフォント) Windows® Vista は標準のスケール (96DPI) 使用してください Windows® XP は通常のフォントかつ 96DPI 使用してください
CD-ROM ドライブ	セットアップ時に必要
ハードディスクの 空き容量	最低 10MB
プリンタ	基本ソフトで使用可能なページプリンタ

*1 : 64ビット版を除く

4.動作可能なアプリケーションのバージョン

Windows® Server 2008で動作可能なアプリケーションは、以下のバージョン以降となります。
セットアップできるのはデータベースセットアップのみです。

製品名	バージョン	
	データベース	(参考)クライアント
ネットワーク基本パック	3.50	3.50
法人税顧問 ネットワーク版	H15.10	H15.10
内訳書・概況書顧問 ネットワーク版	7.00	7.01
所得税顧問 ネットワーク版	H14.10	H14.10
給与応援 Super ネットワーク版	H15.10	H15.15
減価償却応援 ネットワーク版	5.00	5.03
キャッシュフロー分析応援 Super ネットワーク版	2.00	2.00
顧問先情報 ネットワーク版	2.30	2.30
報酬請求 E X ネットワーク版	4.00	4.00
電子申告応援 ネットワーク版	H17.30	H17.31

5.その他注意事項

Windows® Server 2008 につきましては、Microsoft社でのOSの目的、機能仕様に基づき、サーバとして使用する場合のみ動作保証させていただきます。

応援シリーズ スタンドアロン版およびネットワーク版のクライアントでの使用は保証外となりますので、ご了承ください。

応援シリーズ ネットワーク版アプリケーションのクライアントセットアップの禁止

Windows® Server 2008で「応援シリーズ ネットワーク版アプリケーション」のクライアント・セットアップを行わないでください。「応援シリーズ ネットワーク版アプリケーション」のデータベース・セットアップのみを行ってください。

サーバでは、ネットワーク基本パック以外の「応援シリーズ ネットワーク版アプリケーション」を操作することができません。各アプリケーションの操作はクライアント PCで行ってください。

「財務応援 Super ネットワーク版」のセットアップの禁止

Windows® Server 2008で「財務応援 Super ネットワーク版」をセットアップしないでください。「財務応援 Super ネットワーク版」では、サーバ・コンピュータをデータサーバとしてのみお使いください。